

北緯40度

そぞろある記



緑の村に歓声響く

ゴールデンウィーク恒例の「緑の村こどもまつり（実行委、村など主催）」が5月4、5の両日、鳥居地区のうねとり山荘周辺で行われました。

新緑がまぶしい会場には村内外から約3,000人が来場。汗ばむ陽気の中、金魚すくいやエアートラ

ンポリン、ローラーコースターなどを楽しむ子どもたちの歓声が響いていました。4日の正午過ぎから行われた風船早割ゲーム大会では、子どもたちが元気にチャレンジ。（写真）風船が割れると会場から拍手が起こっていました。



元気で帰ってこいよ

黒崎小学校（大洞晴洋校長、児童17人）の5、6年生8人が4月25日、サケ供養塔前の普代川河口でサケの稚魚約5万匹を放流（写真）しました。児童たちは村漁協職員の下道勇次栽培漁業課長の協力で、約5センチほどに成長した稚魚を白いバケツに分けてもらい大切そうに放流。昨年12月同校で採卵、受精させて育てた約200匹の稚魚も一緒に放流し、「元気で返ってこいよ」と名残惜しそうに声を掛けていました。

皆で地域をきれいに

村のイメージアップと環境美化の推進を目的に「北緯40度コースライン・クリーンアップ大作戦」（村観光協会・嵯峨政嘉会長）が4月25日、村内全地区で行われました。

小雨が降る中、午前6時一斉に始まった清掃活動には、約400人が参加。国道や県道、村道脇に捨てられたコーヒーやジュース、ビールの空き缶、たばこの吸い殻などを約1時間拾い集めました。収集したゴミは役場駐車場に搬入。（写真）総量は約2トンにも及びました。上区の澤口良平さん(69)は「前日に国道管理でもゴミ拾いをしていたので、あまりないと思っていましたが、去年と同じトラック1台分もありました」と驚いていました。

